

日時 令和8年(2026年)3月6日(金) 18時00分から
場所 オホーツク総合振興局保健環境部北見地域保健室(北見保健所)会議室
出席者 別添「出席者名簿」のとおり【WEBハイブリッド型式】
議題 1 北海道病院事業改革推進プランについて
2 地域医療構想推進シートについて
3 その他

議事

1 北海道病院事業改革推進プランについて

ア 道立病院局(経営企画課)から資料説明
(特記事項)

○ 北海道病院事業改革推進プラン【概要】(資料1)

- ・ このプランの目的は、人口減少や医療従事者不足が進む中でも、道立病院が将来にわたり地域に必要な医療を提供できるよう、中長期的な視点で経営改革を進めていくこと。
- ・ 策定の背景は、道立病院を取り巻く環境が、人口減少と高齢化、コロナ後の受診行動の変化、医療従事者不足等により、医療供給体制、経営環境ともに厳しさが増していること。今後は高齢化による疾病構造の変化、医療DXの進展などへの対応も必要になっている。このため、限られた医療資源を有効に活用しながら、持続可能な病院運営を確立する必要がある。
- ・ 本計画期間は令和8年度から令和12年度までの5年間。
- ・ 基本方針は、地域医療構想との整合を図りながら、持続可能な病院運営を確立し、地域で必要な医療を安定的に提供する。その実現に向けた主な取り組みは4つ。
- ・ 1つ目は、病院機能の維持・充実。地域の医療機関との役割分担を明確にしながら、救急医療など、地域で必要とされる医療提供体制を維持する。また、地域包括ケア病床、リハビリ機能、訪問看護などの充実を図る他、オンライン診療等、医療DXの推進にも取り組んでいく。
- ・ 資料2ページ、2つ目は医療人材の確保と育成。医師確保に向けて、道内医育大学との連携を強化するとともに、専門研修や資格取得支援等を通じ、人材育成を進める。また、病院経営に精通した事務職員の育成にも取り組む。
- ・ 3つ目は、働き方改革と勤務環境の改善。医師事務作業補助者や看護補助者の配置等による、タスクシフト、タスクシェアを進める他、ICTの活用により、業務の効率化を図っていく。また、処遇改善等を通じ、働きやすい職場環境の整備を進める。
- ・ 4つ目は、経営基盤の強化。地域の医療需要を踏まえ、病床機能や規模の最適化、適正な職員配置を進める。また、診療報酬の加算取得や紹介・逆紹介の推進等により、収益確保を図るとともに、業務委託の見直し等による費用削減にも取り組み、一般会計負担金の縮減を目指している。
- ・ 資料3ページ、収支計画。収益的収支は収益確保と費用削減の取り組みを進め、令和12年度に向けて改善を図っていく。道立病院は採算確保が難しく、当面は一般会計負担金により収支均衡を図っていくが、総務省の基準に無く一般会計から繰り入れている基準外の負担金については、段階的な縮減を目指している。
- ・ 北見病院は令和9年度末で指定管理期間が満了するため、今後の経営形態については、病院の役割や医療需要などを踏まえ検討を進めていく。
- ・ 向陽ヶ丘病院は、今後、精神医療も地域医療構想の対象となる予定であることから、地域で必要とされる精神医療を引き続き提供できるように取り組みを進めていく。
- ・ 本プランは第1回定例道議会の議論を経て3月中の成案を予定している。

イ 質疑応答(有 ・ 無)

【質問】

→北網圏域には道立病院が2カ所あり、どの病院も医療関係者の確保が大変な理由として他の職種に比べて給与が上がっていないというのが一番大きいと思うが、診療報酬が少し上がってきて、その点について何か考え等はあるか。

【道立病院局】

→やはり医療従事者の確保のために処遇の改善は重要である。公務員の職場であるため、人事院勧告などそういった処遇を第一に考え、その上で働いている皆様の満足度が上がるような取り組みを進めていく。

議長：道立病院事業推進プランについて承認と言うことでよろしいか→承認。

2 地域医療構想推進シートについて(資料3)

ア 事務局(北見保健所企画総務課企画主幹)からの資料説明
(特記事項)

○令和7年度地域医療構想推進シート(資料3)

- 資料2ページ3番、将来に不足することが見込まれる機能の確保と(1)病床提供及び2025年の見込み。計画上の必要病床数は高度急性期275床、急性期790床、回復期744床、慢性期641床、合計2450床。対して、平成28年度は高度急性期270床、急性期1688床、回復期84床、慢性期871床、休棟が117床、合計3030床と隔たりが大きかった。
- 2025年7月1日現在では高度急性期404床、急性期805床、回復期447床、慢性期781床、休棟73床、合計2510床。急性期と慢性期が減少し、高度急性期と回復期が増加することで、計画数にかなり近づいている。
- 意向調査における2026年の病床数は高度急性期400床、急性期799床、回復期496床、慢性期684床、休棟109床。必要病床数と比較して回復期が不足しているように見えるが、病棟単位の病床数の積み上げのため、実際の患者数とは多少のずれがある可能性がある。
- 高度急性期病床は過剰となっているが、北網圏域は三次医療圏において医大病院がない地域であるため患者流出が非常に少ないことが原因だと考えられる。
- 結果としては、北網圏域の意向調査における病床数の合計は、計画の必要病床数に近似している。
- 資料4ページ3番、(3)の②ICTを活用した地域医療情報連携ネットワークの整備状況について。北見赤十字病院・北海道立北見病院地域連携ネットワークにおいては、紹介・逆紹介患者にかかる診療情報書など、診療データを導入機関から参照可能になっている。また、参加施設からの登録による双方向連携が可能になっている。今後は、介護・福祉・行政機関を含めたオホーツク地域全体でDXを活用した連携を図っていきたいと考えている。参加機関については医療機関、訪問看護ステーション、老健、調剤薬局、ケアマネ事務所などが登録されている。
- 網走市他職種連携情報共有システムは、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画における在宅医療介護連携を推進するための重点施策として、医療機関訪問看護事業所と各介護保険事業所間において情報共有するシステムを構築している。北海道薬剤師会北網支部に委託されている事業である。
- 資料5ページ目(4)非稼働病床への対応については、令和7年7月1日現在で73件となっており昨年度から100床減少している。
- 資料5ページ中ほど4番の(1)在宅医療の確保対策の必要量は新しい医療計画に基づき、新たな在宅医療などの必要量が記載されている。北網は2026年が1024人、2029年が1149人となっている。
- 在宅医療の確保について、保健所の取り組みは圏域の医療計画を推進する圏域連携推進会議の専門部会に他職種連携チームを設置し、年2回程度のチーム会議と研修事業を、在

- 宅医療提供体制の強化につながる取り組みとして実施している。
- 資料6ページ、5番の(1)の表、斜里町は医療と介護が連携した地域包括システムの構築に向けた基本的な考えとして、令和7年6月に町長の直轄組織である斜里町国保病院・地域包括医療支援室を設置した。地域医療の中核を担う町立国保病院の医師確保と、経営基盤強化、それから地域包括ケアの推進と介護福祉分野の連携強化、並びに町内の医療機関との連携強化を進め、地域における持続可能な医療体制の構築を推進するとされている。
 - (3)その他医療・介護従事者の確保等について、北見市は医師確保のために市内の医療機関に勤務を希望する医師に対して視察に要する交通費や宿泊費を補助していたが、受け入れる医療機関に対しても補助を可能にしている。
 - 新たな介護従事者の就労確保のため、地域雇用活性化推進事業として資格取得を目指した基本となる知識技術を習得する研修を実施や、有償ボランティアマッチング事業として介護現場での隙間時間を活用して、お手伝いをしたい地域住民とマッチングするサービスを実施している。これは、令和7年12月から今年の9月まで介護事業所のシステム利用料を無料とする取り組みを開始していて、より利用しやすい仕組みを構築している。
 - 資料7ページ目の網走市では、医療機関が実施する修学資金制度を利用している学生の上乗せ補助額と介護施設が実施する修学資金制度を利用している学生の上乗せ補助額、それぞれ月額3万円が開始されている。
 - 資料8ページ目、公立病院経営強化プランの進捗状況について。美幌町立国民健康保険病院は、脳神経外科や口腔嚥下機能の低下及び認知症予防への対応を含め、令和8年1月から言語聴覚士を採用し、リハビリテーションの充実・強化を図っている。急性期病院としても、必要な治療を実施し DPC における入院期間を目安に平均在院日数の適正化を図り、病床の有効利用と患者満足度の向上に努めている。
 - 斜里町国保病院については、令和7年10月以降さらに常勤医師が減少し、現在2名体制になっている。患者数の減少も続き経営状況がさらに厳しくなる中で令和7年10月から療養病棟を休棟とし、入院患者を一般病床に集約した病棟運営をしている。令和5年度に策定した公立病院経営強化プランの見直しを行い、病床数や機能の適正化、経営改善を進めていく。
 - 資料10ページ目、JA 網走厚生病院は令和7年度に脳神経外科の診断に必要な MRI が1市4町の財政支援により整備されている。令和8年度には脳神経科外科領域で使用頻度が高いRIが更新期を迎えるため、1市4町と協議を行い、財政支援を要請している。経営改善や経常損失の縮減、マンパワー不足に対する診療機能の最適化を目指し、検討され、大学医局とのさらなる連携強化も考えられている。各自治体とは残すべき診療機能などの協議を進め、当地域における急性期医療の確保を図っていく。なお、臨床研修医2名の募集があり、令和7年度に採用されている。
 - 小清水赤十字病院は、入院機能は人口減に伴う患者数減もありダウンサイジングが段階的に実施され、診療圏域の状況を確認しながら将来最適な病床規模及び診療機能の減少に向けた見直しを行う。令和7年4月から理学療法士・作業療法士の増員し、より一層機能回復を支援し、日常生活への復帰を促進することで、質の高い医療サービスを提供し、生活の質の向上を目指している。
 - 資料11ページ目、(6)病床機能報告制度に係る取り組みですが、なお書きで、診療報酬改定により区分が変更される場合はあると記載した。理由としては、現行の目標値である必要病床数は平成25年度データから作成されたものであり、度重なる診療報酬の改定や人員不足などによって看護単位を変えても受け入れる患者の病状は変わっていない、しかし構想上の区分が変わってしまうということがあるため。意向調査を受けた上で別紙に数字を記載し、特段の協議は行わない。
 - 資料12ページ目、本年度の取り組みに関する評価(課題)及び今後の方向性について。将来的に不足する医療機能の確保の欄にある回復期病床については、計画当初から約5倍となっており、概ね確保されつつある。

- ・ 在宅医療の確保の欄について。在宅医療連携拠点が1ヶ所、それから在宅医療推進支援医療機関、こちらが3ヶ所、病院が1ヶ所、診療所が2ヶ所指定されていて、多職種で構成される協議対による関係機関をコーディネートしながら必要な連携体制を構築していく。
- ・ 資料3別紙について。3番目の小林病院は名称が、医療法人社団桜会小林病院から小林病院に変更されている。オホーツクリハビリテーション病院については、令和7年7月の厚生労働省報告、意向調査時のケイ・アイオホーツク海病院と、以前の名前で記載している。
- ・ イ 質疑応答(有・)

3 その他

特になし

4 地域医療構想アドバイザーの意見

(特記事項)

○北海道医師会 常任理事

- ・ 北網圏域の医療提供体制について地域医療構想推進シートで共有して大変有意義だった。医療体制の維持のために様々な工夫をして取り組んでいることを知って大変勉強になった。
- ・ 今の地域医療構想は説明にあったとおり、平成25年ごろに策定された必要病床数で議論していて、今とは病床稼働率も大分違い、医療の提供体制も地域を取り巻く環境も大幅に変わっている。今回出席している地域の状況を肌で感じている先生方の感覚に合わせて病床は考えて問題はないと思う。
- ・ 2027年から新しい地域医療構想が始まるため、今後は外来、介護、在宅等も地域医療構想に入ってきて、病床機能だけではないものになるので、中で話し合う内容もステークホルダーの数も非常に多くなる。そうした中で今後はしっかりそれらの関係者が連携しあうことが非常に重要だと思う。今週、新しい地域医療構想の策定ガイドラインの案が公表され、来週再来週に、厚生労働省主催の研修会の方に私も参加する。今はまだ断片的なことしか私も把握していないが、今後しっかり勉強をして少しでも役に立てるように頑張っていくので今後ともどうぞよろしくお願いします。

○北海道病院協会 特別顧問

- ・ 地域医療構想に関しては医療構想推進シートをもとに、非常に整備されて、順調に進んでいると思う。医療資源が少なく、人口減という非常に大きな問題を抱える中で、このように、きっちりとした、道筋をつけているのはすごくいいと思う。
- ・ 新たな地域医療構想というものが2040年に向けてあり、そのガイドラインができかけている。ただそのガイドラインをつくるべきまとめ案のところ、今まで地域医療構想は病棟機能で急性期とか回復期とかだったものを、病院機能に変えるということで、病院単位で機能を持つというようなふうに見えている。
- ・ 特に救急に関しては、若い人たちの急性期、拠点機能と、お年寄りはそのから分けて、高齢者救急、地域医療機能を担う医療機関というように分けてやるようになる、ということが少し見えている。具体的にはまだ見えないが、地域医療構想から大きく変わっていくような気がする。
- ・ そして診療報酬は改定があり3月5日に告示されたが、中身を見るとやはりその辺り、医療機関ごとに新たな地域構想にある程度沿った内容が見えている。これに対応するのはかなり大変だと思う。地域医療構想を推進していくとともに、新たな地域医療構想或いは診療報酬改定をよく読んで、それを解釈して地域でどうやって病院ごとに機能分けられるか、そしてその連携をどうするか、そういうことが変わるので大変だと思う。今日のようなきっちりとした議論をしながら、推進してほしいと思う。

- ・ 私たちもそういう情報をできるだけ早取りし、これから色々なアドバイスできればと考えている。

以 上